

コース選び、実行委がコンペ

今でも多くの学校では、修学旅行という行事が行われていきます。「今でも」と言うのは、はたして団体旅行としての修学旅行は学校教育にとって必要なものなのか、という疑問があるからです。

家族や仲間と様々な所に旅行できる時代に、改めて観光地に学校として泊まりがけで出かける必要性があるのでしょうか。もちろん、学校教育として行うからこそ可能な内容や、集団での活動の意味が無いわけではないでしょう。語学研修や平和学習を軸とした実践も少なくありませんが、それでも学校教育における集団旅行のあり方は再検討されるべきではないかと思っています。

自由の森学園高校では創立時

修学旅行

はぐくむ

から、修学旅行はコース別で、コースの選定は生徒に委ねられてきました。生徒が提案し、生徒の投票によって決めるシステムです。学校側が決めているのは、予算の上限や引率教員くらいです。30年間、ユニークで様々な学びと体験のツアーが企画されてきました。

さて、新年度の修学旅行の準備が現高校2年生らによって進められています。修学旅行実行委員長の山畑しずくさんに聞きました。

山畑さんは「行きたくないと感じる人をゼロにしたい」と考え、実行委員長に名乗り出ました。地元の高校に通う友人に聞くところ、ほとんどは行き先があらかじめ決められていたそうです。

「自分が中学生の時も行きたくなかった。でも実際に行ってみたらこそ出会えたこと、行ってみなければ分からないことがあった」。そういう気持ちをみんなに持ってもらいたいのことでした。

今回は、これまでとちよっと違うコースの選定方法がとられています。コースの選定は、初めて実行委員会によるコンペティション方式をとりました。生徒の人気投票ではなく、行き先や活動の内容、バランスを考慮して議論して決めることにしたそうです。これまでにない新しい方向性です。

高校2年生の教室の廊下には、時間をかけて議論して決められた選定基準とコース提案が掲示されています。個性的な8コースからどんな企画が選ばれるか楽しみです。

自由の森学園理事長

鬼沢真之